

令和元年度幼小ジョイントプロジェクト ～那須町の取組～



栃木県総合教育センター幼児教育部
栃木県幼児教育センター



幼小連携のさらなる充実のために

子どもの交流活動



先生同士の打合せ



一緒に学校探検



小学校へようこそ



- Point!
 - 幼児・児童の双方のねらいを明確にし、互いに学びのある活動を展開しましょう。
 - 年間計画に位置付け、幼稚園や保育所、こども園と小学校が一緒に活動の立案・実施・評価を行うことが望めます。

教職員の相互理解



相互の職場体験



保育・授業の相互参観と協議



合同の研修会



- Point!
 - 保育や授業を相互に参観したり体験したりして子どもの発達や学びに視点を置いて話し合います。
 - 幼稚園・保育所、こども園・小学校の教職員が一緒に研修に参加し、互いの教育について積極的に語り合います。

連携組織の設置

- ・幼小連絡協議会
- ・幼小連携推進委員会等



連携の様々な取組が、効果的に行われるようコーディネートする役割があります。

連絡体制の整備



園だより・学校だよりによる情報交換



教育委員会内の使送ボックス（幼稚園・保育所、こども園宛て）



定期的な情報交換会



- Point!
 - 連絡体制の整備は、行政機関が中心となって進めることが大切です。幼稚園、保育所、こども園、小学校が積極的に意向を交換し、地域の特色を生かした組織をつくりましょう。
 - 教職員が互いの顔や名前が分かり、日常的に情報交換をしたり相談したりするなど、定期的・継続的な連携が望めます。

一貫性のある指導計画の作成



伝え合う力を育てるための年長から一年生へのカリキュラム



入学当初のスタートカリキュラム



- Point!
 - 子どもの発達を把握し、見直しを持って指導することが必要です。そのためには、育てたい子どもの姿や、能力などを互いに話し合い、どのような指導かどの年齢で必要が明らかになります。
 - それらを踏まえ、幼児期の「遊び」を充実させ、児童期の「学習」に生かしていくために適切な手立てをカリキュラムに位置付けましょう。

幼小連携を推進することで

子ども

- ☆ 一人一人の発達や学びの連続性が保障されます。
- ☆ 自分や友達の下さに気づき、遊びや学びが広がります。

教職員

- ☆ 子どもの発達段階を知ること、教職員の子ども理解が深まります。
- ☆ 互いの教育を理解することで、自身の教育観が広がります。

保育・授業

- ☆ 幼児教育から小学校教育への滑らかなカリキュラムの接続により、改善・充実が図れます。

栃木県幼児教育センターは、幼小連携の取組をサポートします。

連携に関する講話・研修・保育及び授業研究会などにアドバイザーを派遣します。お電話ください。

【連絡先】TEL 028-665-7215 FAX 028-665-7216
E-mail yokyop-centochigi-edu.ed.jp



目 次

Ⅰ	幼小ジョイントプロジェクトとは	2
Ⅱ	那須町の幼小ジョイントプロジェクト	3
1	概要	3
2	各会の様子	4
	第1回：趣旨説明	
	第2回：授業公開・研究協議（那須町立黒田原小学校）	
	第3回：接続期カリキュラムの見直し	
	第4回：保育公開・研究協議（那須町黒田原第1保育園）	
	第5回：幼小交流活動公開・研究協議	
Ⅲ	その他の幼小連携事業の概要	15
Ⅳ	さらなる幼小連携の充実にむけて	16



幼小ジョイントプロジェクトとは

幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期であり、幼児教育は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものです。「栃木県教育振興基本計画 2020 ―教育ビジョンとちぎ―」においては、「幼児教育の充実」を基本施策の一つとして掲げ、その主な取組として「幼児教育と小学校教育の連携の深化・拡充」が示されています。その中に、「市町の教育委員会や保育主管課等との連携を密にし、市町の現状に即した取組を支援し、その成果を県全体に発信する」とあります。

これを受け、幼小ジョイントプロジェクトでは、県内 1 市町を指定し、年間 5 日の計画で市町教育委員会や保育主管課と協力して、大学教授等の助言の下、市町の幼小連携を推進しています。幼稚園・こども園・保育所等から小学校等にわたり、子どもの発達や学びの連続性が確保できるよう、幼稚園・こども園・保育所・小学校等の教職員が合同で保育・授業を参観し、協議し合うことで、教職員の「子ども観」「教育観」の相互理解を深め、教育・保育の質の向上を図ることを目的としています。

令和元年度は、那須町で実施しました。那須町では、幼保小中一貫教育の施策の下、平成 30 年度にスタートカリキュラム・アプローチカリキュラムの町としての基本的な考え方及びそのモデルを作成しました。これらは、幼小共同で作成を進めたため一貫性のあるカリキュラムとなりました。そこで、今年度は、モデルのカリキュラムの下、各園・校で実践し、より子どもの実態に即したカリキュラムとなるよう、自園化、自校化を図ることが計画されました。

本事業を受け、那須町では今年度の計画を円滑に推進するために、町内全ての幼稚園・こども園・保育所・小学校から 1 名以上参加しての会合を全 5 回実施しました。さらに、各会の目的を明確にし、例えば第 3 回は主任・教務主任のみ、第 4 回は校長・園長と担任など、目的に合わせた参加者としました。各会、目的はそれぞれにあるものの、全体を通して「主体的」「語り合い」の一貫した視点で子どもの学びについて考えを深めました。教育委員会、保育主管課が目的を共にし、公立私立の枠を超え、町が一丸となって幼小のカリキュラムの接続をより一層充実したものにしていく一つの手立てを提示してくれたものと思います。

本資料では、那須町の実践と成果を紹介します。各市町や地域における幼小連携推進の参考にしていただければ幸いです。





那須町の幼小ジョイントプロジェクト

1 概 要

回	日・会場	内 容
第1回	5/14 (火) 黒田原小学校	〈 趣旨説明 〉 1 あいさつ 県総合教育センター幼児教育部長 県幼児教育センター長 新村 幸江 2 プロジェクト参加者自己紹介 3 説明「スタートカリキュラム・アプローチカリキュラムの充実」 県総合教育センター幼児教育部指導主事 黒川 貴広 4 説明「那須町の取組について」 那須町教育委員会事務局学校教育課指導主事 安宅伸太郎 5 基調講話「幼小ジョイントプロジェクトに向けて」 宇都宮大学大学院教育学研究科教授 青柳 宏
第2回	6/11 (火) 黒田原小学校	〈 授業公開・研究協議 〉 1 授業公開「スタートカリキュラムの実際」 那須町立黒田原小学校教諭 相馬 九子 2 グループ協議 3 指導助言 宇都宮大学大学院教育学研究科教授 青柳 宏
第3回	7/24 (水) 那須町役場	〈 接続期カリキュラムの見直し 〉 1 本日の趣旨について 那須町教育委員会事務局学校教育課指導主事 安宅伸太郎 2 接続期カリキュラム見直しのポイントについて 県総合教育センター幼児教育部指導主事 黒川 貴広 3 グループ協議
第4回 (*兼 幼・ 保・小連絡 協議会全体 研修会)	10/7 (月) 黒田原第1 保育園	〈 保育公開・研究協議 〉 1 開会の言葉 那須町立那須高原小学校長 成田 智敬 2 顧問代表あいさつ 那須町教育委員会教育長 平久井好一 3 会長あいさつ 那須町立学びの森小学校長 石田 弘 4 会場園長あいさつ 那須町黒田原第1保育園長 佐々木孝子 5 保育公開「アプローチカリキュラムを生かした保育」 那須町黒田原第1保育園保育士 笹沼寿美子 〃 渡邊まみえ 〃 深山 彩織 6 グループ協議 7 指導助言 宇都宮大学大学院教育学研究科教授 青柳 宏
第5回	2/17 (月) 黒田原小学校	〈 幼小交流活動公開・研究協議 〉 1 交流活動公開 2 交流活動での子どもの姿 那須町立黒田原小学校教諭 相馬 九子 那須町黒田原第1保育園保育士 3 グループ協議 4 指導助言 宇都宮大学大学院教育学研究科教授 青柳 宏 5 プロジェクトを振り返って 那須教育事務所指導主事 橋本 直子 那須町教育委員会事務局学校教育課指導主事 安宅伸太郎 県総合教育センター幼児教育部長 県幼児教育センター長 新村 幸江

2 各会の様子

第1回：趣旨説明 令和元年5月14日（火） 15:30～17:00

会場 黒田原小学校 図書室

参加者 小学校（校長1名、担任7名）

幼稚園・こども園・保育所（園長1名、主任2名、担任8名）

大学・行政11名（学校教育課課長・指導主事、こども未来課課長・指導主事 その他）

〇あいさつ

県総合教育センター幼児教育部長

県幼児教育センター長 新村 幸江

那須町がカリキュラムの質を更に求めて改善していく試みは大きな意義があります。幼児期の学びをどういったカリキュラムで花開かせることができるか楽しみにしています。

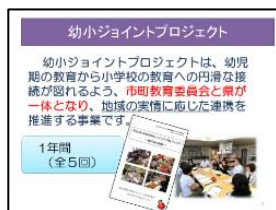


〇趣旨説明「スタートカリキュラム・アプローチカリキュラムの充実」

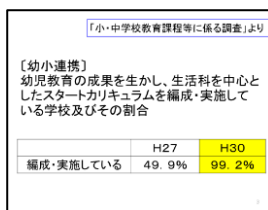
県総合教育センター幼児教育部指導主事 黒川 貴広



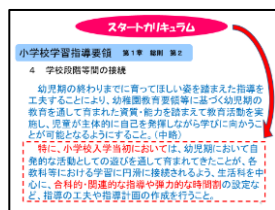
ジョイントプロジェクトの趣旨や目的等を伝えました。



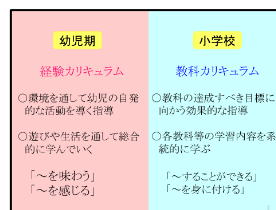
昨年度の那須町の成果をさらに発展させる形でバックアップします。



スタートカリキュラムの作成率は県全体でほぼ100%。那須町はもちろん100%。



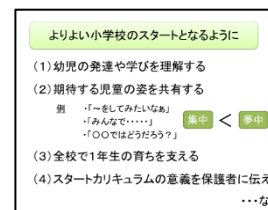
小学校学習指導要領上の位置づけは、このようになっています。



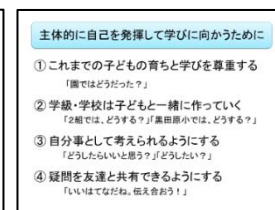
幼小には違いがあります。違いを同じにするのではなく、違いを尊重する！



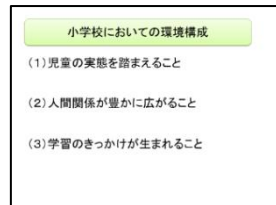
「幼児期の終わりにまで育てほしい姿」を語り合うことが大切です。



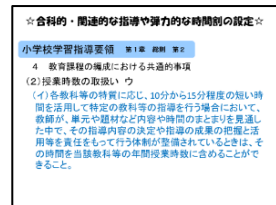
小学校スタート時に、今求められることです。



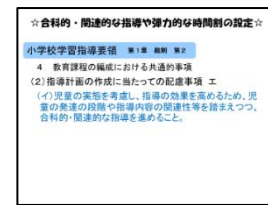
「主体的に自己を発揮して学びに向かう」は、接続の大きなキーワード。



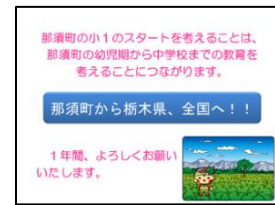
小学校スタートの「環境」を考えていくときのポイントです。



学習指導要領に、弾力的な時間割（いわゆるモジュール）の規定があります。



合科的・関連的な指導についても規定があります。



ふるさと那須に誇りをもつ子どもを育てるために一緒に考えていきましょう！

○説明「那須町の取組について」

那須町教育委員会事務局学校教育課指導主事 安宅 伸太郎



那須町では「夢ある子どもを育む那須の教育～0歳からの魅力ある一貫教育を目指して～」の教育理念の下、幼保小中一貫教育を推進している。

その中で幼小間における次の課題を重点に、昨年度、幼小接続の事業を行った。

課題①

スタートカリキュラムが、1年担任・生活科主任によって編成されてきた

⇒教育課程編成の中核を担う教務主任を中心に

課題②

スタートカリキュラムが、小学校入門編(適応)のカリキュラムになっていた

⇒「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに再編成

教務主任・主任保育士等合同研修会を通して、学校教育課、こども未来課協働で、アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの町としての「基本的な考え方」及び「様式」を作成した。

目指したいのは・・・

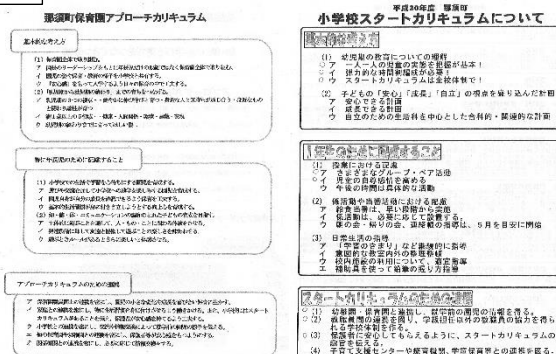
幼と小が互いに尊重し合える関係作り！

今年度、これを更に深めていければと思う。

幼小の接続を町全体で考えていくことは、那須町の課題である不登校児童生徒の増加や自尊感情の低さの解決に寄与するものと考えている。



那須町発「夢ある子どもを育む那須の教育」



○基調講話「幼小ジョイントプロジェクトに向けて」

宇都宮大学大学院教育学研究科教授 青柳 宏

【子どもの語り合い】

幼児教育においては昔からあったことであるが、子どもは「語り合っ」学びを紡いでいる。学力向上の成果を上げている学校を視察すると、授業中にうまい形で「語り合い」を取り入れている。授業中のひそひそ、ざわざわといったものである。子どもは語ることによって入力されたものが、感覚・感情レベルに下り、探求が深まるのである。

小学校の教科カリキュラムに今まで先生たちは縛られすぎていなかったか。授業をコントロールし過ぎて、子どもの語り合いを奪っていなかったか。小1から、子どもは本当に思っていることを語り合う。それは中・高においても同じで大切にしたいこと。

スタートカリキュラムは、単に小学校適応のものではない。発達課題を裏に含んだ中・高のためでもある。大人目線の計画から、子どものための計画へと磨かれていくことを期待したい。



第2回

参加者 小学校（教務主任5名、担任7名）

幼稚園・こども園・保育所（理事長1名、副園長1名、主任8名、担任9名）
大学・行政15名（教職大学院生、内地留学生 その他）

(1) 主体的活動が見られた場面

…新たな環境の中で、自分らしさを表出し自分の持っている力を出している。

…児童が本当に思っていること。ひそひそ話こそ大切。

…見えにくいものを育んできたはず。それを見つげ出す。

教科：生活科

単元名：がっこうだいすき（14時間）＋図工3時間

実施日時		めあて	授業の概要
4/15(月) 1校時		みんなががつこうをあるこう	・教師引率で、校舎内を見て歩く。
4/17 (水)	4校時	こうていにあるいてみよう	・教師引率で、校庭を見て歩く。
	5校時	みつけたものをえでかこう	・校舎内や校庭で見つけたものを、ワークシートに描く。→フォルダに掲示
5/20(月) 4校時		たんけんしたいへやははなしあおう	・拡大校舎略地図を見ながら、たんけんへの意欲を高める。 ・生活班で話し合い、探検したい部屋を第1～第7希望まで選ぶ。 ※実施可能な部屋を選んでいるかどうかを調整し、探検する部屋を決定する
園工5/23(木) 4校時		たんけんなんふだをつくらう	・事前(すなまじものいっぱい)で描いた12枚のイラストを持ち寄り、班のシンボルマークを決め、おそりの名札を作成する。
5/29(水) 4校時		たんけんのやくそくをきめよう	・探検時の注意点について班で話し合う。 ・教科書P. 11の内容を押さえながら全体で確認する。
5/31(金) 3～4校時		がつこうたんけんをしよう	・準備物、やくそく、探検していく部屋の確認をする。 たんけんバック、たんけんちず、ワークシート①、たんけんなんふだ、えんぴつ、消しゴム ・班別行動で決められた部屋に移動し、見聞きたことをワークシート②に記録する。特に印象に残ったものを絵に描く。気付き、疑問、出会った人にも注目させる。
5/31(金) 5校時		がつこうたんけんをふりかえろう	・気付き、疑問、出会った人について交流する。 ・出会った人に再度会いに行きたい気持ちを引き出し、意欲を高める。
6/3(月)	3校時	2かいめのがつこうたんけんについてたしかめよう	・1回目のやくそくに追加、教科書P. 13の内容を押さえながら全体で確認する。インタビュースタイル内容について話し合う。 ・準備物、インタビュースタイルの先生の確認をする。 たんけんバック、ワークシート②、たんけんなんふだ、えんぴつ、消しゴム ・班別行動でインタビュースタイルの人がいる部屋に移動し、対話や交流を通じて分かったことをワークシート③に記録する。気付き、疑問にも注目させる
6/5(水) 4校時		はっぴょうかいのさくせんをたてよう	・生活班で話し合い、伝えたいこと・もの・ひとを4つ以上選ぶ。 ・役割分担を決める。
園工6/6(木) 3～4校時		はっぴょうかかどをかこう	・役割分担した内容が伝わるように8つ切り画用紙に描く。
6/10(月)	3校時	はっぴょうのじゅんばんをしよう	・役割分担した内容が伝わるような発表原稿を2～3文で書く。 ○○○……△△△………、………△△△………、………△△△………、………△△△……… ・園工で描いたカードの裏面に貼る。
	4校時	はっぴょうのかんしめをしよう	・生活班で発表と審判をする。
6/11(火) 5校時【本時】		がつこうたんけんはっぴょうかいをしよう	・話し方、聞き方の確認をする。 ・各班5分程度でカードを用いて発表をする。 ・質問タイムを設け、学びを深める。
6/12(水) 4校時		がつこうたんけんのふりかえりをしよう	・ワークシート④をもとにこれまでの活動をふりかえる。

本時

＜幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿との関連＞

3. 協同性：生活班のメンバーで協力し、企画・活動・まとめ・発表をさせる。
4. 社会性：規範意識の芽生え：2回の探検活動における「早くそろそろ発表、集団行動における基本的なルールが守れるようになる。」
5. 日常生活との関わり：校内の「ひと」に着目し、多くの大人が自分たちを見守っていることを知る。
6. 言葉による伝え合い：生活班の話し合いや全体での発表により、自分の気持ちや思い、考えを言葉で伝え合い交流する。
7. 豊かな感性と表現：印象に残ったことや友達に伝えたいことを絵や言葉などで表現させる。

＜他教科との関連＞

国語：ともだちとはなそう

図工：すきなもののいっぱい／「自分マーク」でみんなとつながる

学級活動：はなしあいをしよう

学校全体の協力を得て。

「もう一度、あの人に会ってみたい!」という気持ちを引き出していく。

願いや思いを更にもたせて。

感じていることをどう表現するかが難しい。

本当の感情を表出すること。これが課題。



○本日の授業について

那須町立黒田原小学校 1 年 1 組担任 相馬 九子

幼小ジョイントプロジェクト第1回を受けて、ここまでの授業で意識してきたことは、次の4点である。

1: 児童の思いに寄り沿う

2: 子ども同士の語り合い

3: 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

本日の授業では、特に (3) (4) (5) (9) (10)

4: 他教科との関連

1 4 時間の単元計画の中で、学活との関連、国語との関連、図工との関連



○協議（小学校、幼稚園・こども園・保育所、教職大学院生が混じり、6グループに分かれて）



- ・堂々と発表している場面は、幼児期の育ちが生かされていた。後半、少しほぐれて自分の思いが出せていた。
- ・担任からの投げかけに、数人でひそひそ話をしている場面があった。
- ・子どもたちが潜在的にもっているものに、まだ私たちは気付いていないのではないかな。その力を引き出していく必要が私たちにはある。

○指導助言（宇都宮大学大学院教育学研究科教授 青柳 宏）

【話し言葉⇒書き言葉】

幼小の移行期において、イメージを共有し日常から使っている「話し言葉」を基に、不特定多数に伝える「書き言葉」の習得が図られていく。しかし、これを焦らずに行っていくことが大切である。焦って進めても、思いを書くことができない児童を生んでしまう。どうしたらよいか。たくさん語り合わせることである。そのことは、「主体性をつないでいく」とも言える。

【「ティーチャブルモーメント」】

子どもが語ること、語り合うことをどう小学校生活の中で保障するか。今日の授業で「振り返りってどういう意味？」とつぶやいた児童がいた。これは題材にしたいことであった。子どもの言動から「まさにここが教える瞬間」を神経を研ぎ澄ませて捉えることである。

○振り返りのまとめから

日々の保育の中で語り合いの場面を大切にしていきたい。

保育園でもよく学んできていたことが分かった。



○ 互いに理解し合う関係性が深まった。



○ 語り合う場面を確保したい。しかし、語り合うスキルの獲得のタイミングは？

⇒引き続きの検討事項

入学前から話の聞き方の約束を
しっかり身に付けさせるべき？

語り合いの中で自然に聞く力
は身に付いてくるものでは？

第3回：接続期カリキュラムの見直し 令和元年7月24日（水） 10:00～11:30

会 場 那須町役場 会議室
参加者 小学校（教務主任6名）
 幼稚園・こども園・保育所（主任9名）

○本日の趣旨について

那須町教育委員会事務局学校教育課指導主事 安宅 伸太郎

小学校の教務主任と幼保の主任が合同で話し合う場合は、これまでも設けてきており、関係はある程度できている。しかし、各校のスタートカリキュラムについて話し合う機会はなかった。互いの考えやその時期の学びについて十分に確認する時間にしてもらいたい。

○協議「接続期カリキュラムの見直し・改善」

（1）接続期カリキュラム見直しのポイントについて

栃木県総合教育センター幼児教育部指導主事 黒川 貴広

那須町では、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを接続期カリキュラムとし、両カリキュラムの自園化・自校化（見直し作業）を同時に進めているが、この場ではスタートカリキュラムを主に取り上げ幼保で確認していく。その作業を通して、教務主任（主任）としての今後のアプローチカリキュラム・スタートカリキュラム見直しの視点をつかんでもらう機会とした。

① 幼児期（年長）の学びの確認



年長2学期の保育ビデオを視聴し、遊びを通して子どもは何を学んでいるのか、何を身に付けているのかを確認した。

【視聴ビデオ】

「年長さんがつくったおばけやしき」岩波映像

② 模擬のスタートカリキュラムを修正

①で確認した学びをつないでいくためには、カリキュラムがどうあればよいのかといった視点から、幼小のペアで話し合いながら修正した。

<用意した模擬のスタートカリキュラム>

理想的なカリキュラムではなく、「これでよいだろうか」と話し合いを生む個所が随所にちりばめられている。

- ・期待する児童の姿
- ・期間は第4週まで
- ・各教科の単元配列
- ・配慮したい事項

⇒配列順を変更したり、表記そのものを変更したり、合科・関連を考えたりした。

（２）接続期カリキュラム見直しのポイントについて

持参した自校のスタートカリキュラムを幼保の意見を取り入れながら見直す。その際、模擬のスタートカリキュラムを修正した際に気付いた視点を念頭に置いた。

「配慮事項」の欄があったほうがよい。

幼児期の発達や学びの視点が抜けていた・・・。

もう少し、一つ一つの活動が具体的に見えるようにしたい。

期待する児童の姿が描き切れていない。全員で話し合い、もっと明確にしていきたい。

○那須町保育行政から

那須町こども未来課嘱託指導主事 増田 眞千子

【小学校へ】

夏季休業中に、保育園を見に来てもらいたい。本日、幼児期の子どもについて多くの気付きと新たな疑問が生まれたことと思う。子どものことを知るためには、実際に学びの姿を見るのがよい。

【幼保へ】

ただ「座っている」だけの子を育てないこと。好きな所で、好きな友達と、やりたいと思うことをとことんやる。そういった遊びこむ環境を通して、那須町の子の主体性を育んでいきたい。

○振り返り

幼児期の終わりまでに育てほしい姿を小学校でうまく生かしてくれていることが分かり安心した。今日の話合いを踏まえて、もう一度自園のアプローチカリキュラムを見直し、小学校就学に向けてうまく接続できるように園全体で取り組んでいきたい。
(幼稚園)

アプローチカリキュラムや保育映像を見て、こういう援助が小学校につながっているのだと実感できた。せっかく育てている力を意識せずにつぶしてしまったり、停滞させてしまったりしないように、足を運び合い、連携を密にしていけることが大切だと思った。
(小学校)

スタートカリキュラムを見直していくことは難しかったが、教務主任と話す機会こそが幼保小接続につながると感じる。主体的に遊べる子を育てるべく、保育園に今日のことを持ち帰り、アプローチカリキュラムを検討したい。
(保育所)

入学してすぐに、行儀よく座らせて、決まりを守らせて・・・という教師側の意図は、スタートカリキュラムの中心的な要素で本当によいのかと疑問に思った。本校のスタートカリキュラムのねらいにもう少し積極的な意味を持たせて、自分の意思をもっと表現できる場を設定するカリキュラムを作りたい。
(小学校)

第4回：保育公開・研究協議 令和元年10月7日（月） 9:30～12:00

会場 黒田原第1保育園 年長保育室・その他全保育室・ホール
参加者 小学校（校長6名、教頭1名、担任6名）
 幼稚園・保育所（園長8名、主任1名、担任11名）
 大学・行政16名（教育長、学校教育課長、こども未来課長、教職大学院生、その他）

アプローチカリキュラムを生かした保育

配布資料

- ・デイリープログラム
- ・アプローチカリキュラム
- ・10・11月の指導計画

活動 レッツ！ハロウィン” ～ハロウィパーティーのはじまり～

これまでの活動

月日	活動	内容
9/5 (木)	話し合い 「今年のハロウィンは どうするか？」	・どんなハロウィンにしたいか、子どもたちの意見をきく。
9/19 (木) am	話し合い グループを決める	・前回の話し合いで出た意見より 〈おばけのへや〉〈宝さがし・ゲーム〉〈おみせやさん〉の グループ分けをする。 各グループで、どんなことをしたいのかを話し合う。
9/19 (木) pm	園長先生に手紙を書く	・園長先生へリクエスト フラダンスと一緒に踊りたい。 お菓子を用意してほしい。 びっくり箱の作り方を教えて欲しい。
9/20 (金)	「ハロウィンのお知らせ」 の手紙を園長先生へ届ける	・園長先生へ手紙を渡しに行く。 保育園全体で楽しめるようにする。
9/25 (水)	図書館へ行こう！	・ハロウィンに関する絵本を探し、見て、興味や理解を深める。
9/30 (月)	制作 ハロウィンの飾りつけを しよう！	・ハロウィンのイメージを膨らませ制作に取り組む。 ジャックオーランタン、おばけ等。 折り紙、色画用紙、カラーポリ等を用意する。
10/2 (水) 10/4 (金)	制作 グループ活動	・グループで話し合ったものを制作する。 びっくり箱のカード、看板等。

運動会で、クラス
を越えて友達と協力
していくことを経験
した子どもたち

それぞれの
子どもの思い
から、活動が膨
らんでいく



本日（10/7）
ハロウィングッズ作り
○「おみせやさん」
○「宝さがし・ゲーム」
○「おばけの部屋」

○本日の保育について

那須町黒田原第1保育園きりん1組（年長）担任 笹沼 寿美子



活動「ハロウィングッズ作り」

ねらい (1) 秋の自然物や身近な素材を使って、考え工夫しながら、みんなで作り出す喜びを味わう。

《人とかかわる体験 エ》

(2) ハロウィンの制作を通して、いろいろなことに興味を持ちながら、あそびを主体的に進めていく。

《遊びを通して学ぶ楽しさ ウ》

アプローチカリキュラムの大項目（ 部）・中項目（カタカナ表記）と対応させている

【今日までの子どもの様子】

「10月末にハロウィンパーティーをやる！」という大まかな方向性をもって、それぞれ自分の思いを出しながら活動を進めてきた。「何をしたい？」が初めの投げかけで、そこから様々なものが発展していった。それを大きく二つに分けると次のとおり。

▶おばけの部屋

女の子を中心にどんどん意見が出て、意見のすりあわせ、妥協、新たな提案など、伝える、聞く、話し合う等の経験が充実していた。大きなものがいくつもできあがった。その喜びを感じていた。

▶おばけ飾り作り

おばけが怖くて集まった子どもたち。みんなで作り出す楽しさを味わってきている。図書館にも行き、ハロウィンのイメージを広げたり、文字だけでなくマナーも学んだりした。友達と相談しながら、様々な素材や道具を使って自分のイメージをもって作る姿が見られるようになってきた。

○グループ協議（管理職グループ、担任グループに分かれて5グループ）

主体的になるためには、情緒が育っていること、信頼関係があること、安心感があることが大切。



小さい頃からの話合いの積み重ねが、グループ活動を成立させている。中学生が話す内容とそれほど変わらない。

第4回

○指導助言（宇都宮大学大学院教育学研究科教授 青柳 宏）

【緩やかな協同・開かれた協同】

ロボットを作っていた男の子。うまく安定させることができない。友達に言われて、足の部分をトイレトペーパーの芯から箱形に変更する。発達の違い、思いの違いが響き合って絡み合っていく。子どもの個性、保育者の個性、思いがあふれる素敵な環境があって、環境そのもので、また思いが育まれていく。

【保育は教育の原点】

保育の素晴らしさ

小学校が学ぶことはたくさんある

- ・一人一人の理解
- ・協同
- ・環境

第5回：交流活動公開・研究協議 令和2年2月17日（月） 10:30～12:30

会場 黒田原小学校 体育館・図書室 等

参加者 小学校（校長1名、担任7名）

幼稚園・保育所（園長9名、主任1名、担任10名）

大学・行政16名（学校教育課長、こども未来課長、教職大学院生、内地留学生、その他）

小学校・保育園・幼稚園交流会実施計画

- 1 日時 令和2年2月17日（月）
9:35～11:25
※幼小ジョイントプロジェクト公開10:30～11:25
- 2 場所 黒田原小学校 体育館及び黒小っ子ルーム
- 3 参加者 黒田原小学校1年生 53名
黒田原第1保育園年長児 28名
黒田原第2保育園年長児 10名
高久保育園年長児 3名
- 4 ねらい
 - ・来年生との交流を通して、今年度の自分の成長を再確認し、来年度も頑張ろうという気持ちを高める。（1年生）
 - ・入学前に小学校の様子を知り、1年生との交流を通して、入学に対する意欲を高める。（年長児）
- 5 実施内容…詳細は活動計画書参照
 - (1) あいさつ
 - (2) 1年生による校歌の紹介
 - (3) いっしょに遊ぼう（じゃんけんれっしゃ）
 - (4) 校舎案内
 - (5) 1年生による学校紹介
 - ①学校の日について…スライドと説明
（登校・荷物整理・学習・給食当番・昼休み・清掃・下校など）
 - ②学習について…ワークショップ形式で説明
（国語・算数・生活・音楽・図工・体育）
 - (6) あいさつ

交流活動の一部を公開としたが、多くの参加者がその前の時間から参観した。

ジョイントプロジェクト 公開メイン場面

それぞれのコーナーごとに1年生が準備し、各教科の学習を体験的に紹介する。年長児に伝えたいという思いが溢れている。



算数の紹介

参観・協議の視点

【年長児】

- ①最近の姿、交流活動に向かう姿、交流活動後の姿（予想）から、各園でのアプローチカリキュラムとの関連を捉える。
- ②4月からのスタートカリキュラムは、今の年長児の姿を十分に生かせるものになっているか、確認する。

【1年生】

- ①今の児童の姿は、スタートカリキュラムで期待した姿の延長上にあるか、確認する。
- ②「主体的」「語り合い」を視点に、1年間の育ちとして交流活動に向かう姿、本日の姿を捉える。

○本日の交流活動について

那須町立黒田原小学校 1 年 1 組担任 相馬 九子

ジョイントプロジェクトを通して、「対話」「会話」を大切にしてきた。教科内外の場面で、自分の考え・思いをいかにもたせるか。そして、それを伝える表現力を時に型を与えながら指導してきた。

生活科「秋のお店屋さん」が 1 月まで延びたことで、子どもたちは、国語のお店、算数のお店というイメージで、今日までグループで考えを出し合いながら、組み立ててきた。



那須町黒田原第 1 保育園きりん 1 組（年長）担任 笹沼 寿美子



招待状が小学校から届いてから、子どもたちは、ワクワクしながら今日を迎えた。前半の 1 年生による学校紹介・案内の時は緊張していたが、学習の紹介になってからは、様々な体験をさせてもらう中で、自分を出し始めることができた。これまでの経験とうまく結びつけているようであった。

1 年生の活躍する様子を見て、小学校って楽しそうだと感じ、1 年生へのあこがれをもったと思う。

○協議（小学校、幼稚園・保育所、教職大学院生が混じり、6 グループに分かれて）

- ・子どもたちは、話してなくても語り合っている。これが、保育所の子ども観。（保育士）
- ・園全体で「主体性」をととても大事にしている。自分の思いを伝えられる子。（幼稚園教諭）
- ・幼と小がお互いに歩み寄っているのがすばらしい。小と中の話合いもそうありがたい。（中学校教諭）
- ・グループの大きさを常に考えたい。3～4 人の語り合いをもっと取り入れたい。（小学校教諭）
- ・45 分区切りは、自分のことで一杯になってしまいう。活動を精選して、ゆとりをもった計画にする必要がある。（小学校教諭）



○指導講評（宇都宮大学大学院教育学研究科教授 青柳 宏）

- ▶ 黒田原第 1 保育園では、「今年の 1 年はどうする？」と子どもに問うところから始まっている。経験量のある大人からすれば「それはちょっと難しい」と思われる提案が子どもから出てくることがある。しかし、その「難しいよ」という言葉を保育士は一旦飲み込み、子どもからその声が出てくるのを待つ。それがつながりのある日々を生んでいる。
- ▶ 小中の連携は、中学校の準備のためになっているところが多い。幼小は、互いに歩み寄り主体的、語り合いのためにどうするか、を考えている。教師は見守って、子どもたちで進めていく。そこに今まで見えなかったものが見えるチャンスがある。今後も引き続き、子どもが主人公の活動を幼小間で進めてもらいたい。この雰囲気連携が、小中間にも波及するとよい。







その他の幼小連携事業の概要

【那須町幼・保・小連絡協議会】

第1回	5 / 13 (月)	ゆめプラザ・那須	
第2回	10 / 7 (月)	黒田原第1保育園	* 兼 第4回幼小ジョイントプロジェクト
第3回	2 / 20 (木)	ゆめプラザ・那須	

【教務主任・主任保育士等合同研修会】

第1回	6 / 14 (金) 13:30~14:30	那須町役場	講話・情報交換等
第2回	2 / 3 (月) 13:30~14:30	那須町役場	カリキュラム見直し・行事調整等

会設定の工夫

小・中の教務主任の集まりと幼・保の主任等の集まりを同日に

那須町では、幼小期のスムーズな接続のために、**教務主任・主任保育士等の合同の研修会**を実施しています。それぞれが教育・保育の特色について学んだり、子どもや教師等の交流計画について調整をしたりしています。また、接続期のカリキュラムについても話し合い、改善を図るようにしています。この合同研修を通して、気軽に相談し合える関係が構築され、子どもに対する理解や教師等の積極的な交流へとつながっています。

【合同研修開催のポイント】

- 学校主管の学校教育課と保育園等主管のこども未来課で、同日の集まりとなるように事前調整し、二つの会場を押さえます。
- 前半は合同で研修を行い、後半は、学校・保育園等がそれぞれで話し合いを行います。
- 中学校の教務主任は、前半の時間、別会場で情報交換を行っています。

⇒ これらの工夫により、新しい研修会を設定することなく、幼小合同の充実した研修開催を可能にしています。



町で作成した「アプローチカリキュラム」「スタートカリキュラム」の基本方針について、この会の中で昨年度確認しました。

さらなる幼小連携の充実に向けて

○ 幼小ジョイントプロジェクト全5回を振り返って

那須教育事務所指導主事 橋本 直子



那須町においては、昨年度、全小学校の教務主任、幼稚園・保育園の主任が集まり、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを共同で改善した、先進的な取組と実績という大きな土台がありました。その土台を生かして、今年度は、各園・校のカリキュラムを見直すとともに、実践を重ねていく上で重要なことを確認するというねらいのもと、幼小ジョイントプロジェクトに取り組みました。

第1回では、本事業についての共通理解を図りました。青柳先生からは、「アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムに魂を入れるのは、教育の方法である」ということ、「自立性・自発性を育てるためには、子どもたちが何をやりたいかを受け止め、子どもと教師が共にカリキュラムを創造していくという視点をもつこと」「幼小連携は単に接続期の課題ではなく、学校教育全体を改革していくための重要な基盤である」ことなど、本事業を進める上での大切な視点をいただくことができました。

第2回では、「スタートカリキュラムの実際」ということで、黒田原小学校に授業を公開していただきました。“主体的活動が見られた場面”“語り合いが見られた場面”“幼児期の経験が生かされている場面”を基に、幼保小の先生方が率直に思いを交換し、幼児期の学びが小学校でどう生かされているかについて、多様な視点で語り合うことができました。

第3回では、カリキュラムを見直すに当たり、保育映像の視聴を通して幼児期の子どもの姿の共通化を図りました。その後、学校区ごとに演習を行い、見直しのポイントを押さえた上で、カリキュラムの見直しに取り組みました。教育課程編成の中核を担う、教務主任、保育園・幼稚園の主任が、“幼児期の学びを生かしているか”“主体的に学べる活動になっているか”という視点で接続期カリキュラムについて確認し、見直しを行ったことの意義は大変大きいと感じています。

第4回では、「アプローチカリキュラムを生かした保育」ということで、黒田原第1保育園に保育を公開していただきました。主体的に活動する姿、自由な発想で自分の思いを形にしようとする姿が印象的で、それを支える保育士の綿密な準備と配慮、子どもたちを本気にさせる仕掛けがそこにはありました。グループ協議では、“アプローチカリキュラム”“主体性”“語り合い”を視点に話し合い、遊びを通した学びを児童期の学習に生かしていくための手掛かりが数多く出されていました。

第5回では、幼児と児童における双方のねらいを明確にし、互いに学びのある交流活動が展開されました。保育園と小学校が共に活動の立案、実施、評価を行ったことは大変意味のある実践であったと思います。また、この実践が、よりよいカリキュラムの編成に反映され、生かされていくものであると強く感じています。

全5回を通して、毎回熱心に協議をされる先生方の姿に、子どもたちへの深い思いと教育への情熱を感じるとともに、那須町のチームワークのよさ、連携の素晴らしさを感じることができました。今年度の取組を来年度以降も継続し、さらに深められるよう、微力ではありますが、教育事務所として今後も引き続き支援させていただきます。また、那須町の素晴らしい取組と成果を、那須地区全体にしっかり広めていきたいと考えています。

最後に、本事業に対しご尽力された那須町教育委員会及び那須町こども未来課の皆様、

そして、熱意をもって素晴らしい実践を示してくださった那須町の先生方に、敬意を表しますとともに心より感謝を申し上げます。

○ 事業の振り返りと今後に向けて～那須町取組～

那須町教育委員会事務局学校教育課指導主事 安宅 伸太郎

那須町全ての幼稚園・こども園・保育園・小学校から、のべ120名以上の教職員が参加しました。本事業で得た最大の成果は、幼小で言いたいことが言える関係とその環境を築くことができたことです。町全体での子ども観の共有に一步近づくことができました。

次年度から小学校学習指導要領も、幼稚園教育要領等へ続き全面実施となります。新たに示された三つの資質・能力を踏まえると、自分たちが培ってきた指導方法、教育観はチェンジの時を迎えているのかもしれない。昔からのよい子にするために、手取り足取り型にはめていくのではなく、「主体性」「対話力」という視点をもった指導の改善が求められています。本事業を通して、町の目指すべき子ども像の共有化を図る中で、実際に多くの教職員から保育・授業における主体性や対話的な取組の必要性の声があがりました。「子どもたちにどうしたいのかを聞く」や「自分たちで活動したいと思えるような言葉かけをしたい」など、接続期を考えることで、教育観の意識に変化が見られるようになりました。

ただ、どれだけ多くの気づきを得たとしても、保育・学校現場では「そうは言っても・・・」という難しさがあることは否定できません。その際に、その困難さを互いに本音で言い合える「自然な関係」が何よりも重要になってきます。その土壌があって、多くの気づきが本当の意味で保育・授業に生かされていくのだと思います。

子どもの小さい思いまでつぶさに感じ、幼小でしっかり共有し、保育・授業に落とし込んでいく。自然な関係の下、話し合い、そして実践の繰り返しです。子どもの学びが、遊びから教科学習へと以降する中で、そこをしっかりとやっていくことが、学びを止めないアプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの編成につながってくるのだと思います。この取組を町全体を挙げて引き続き行っていく予定です。



幼小間のカリキュラムの接続は、国の流れとして、「適応」や「安心」といった視点から、「学び」の視点に力点が移ってきています。「学び」を幼小間でつないでいくためには、“互いの教育の場で子どもが何を学んでいるのか”の深い話し合いが必要です。それがあって、カリキュラム・マネジメントが機能していきます。

今回、那須町が成果としてあげる「互いに本音で語り合える関係」は、カリキュラムに魂が入っていく前提となるものです。この関係は一朝一夕に築けるものではありませんが、そこに至るヒントを本冊子から感じていただければ幸いです。

最後になりますが、本事業を引き受け1年間熱心に取り組んでくださった那須町全ての方に深く感謝を申し上げます。

(栃木県幼児教育センター)

市町で取り組む「幼小連携事業」の参考にしてください。

那須町では、素晴らしい資料がたくさん作成されましたが、全てを紹介することはできませんでしたので、是非、お問い合わせください。

